

平成25年度 第1回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会 会議録

日 時 平成25年7月16日(火) 午前10時00分～午前12時00分

場 所 大宮盆栽美術館 2階 講座室

出席者 (敬称略50音順)

<委員>

石上城行(埼玉大学 教育学部 准教授)、老川慶喜(立教大学 経済学部 教授)、田端フサ(盆栽普及活動家)、野崎香代(株JTB関東 営業部 グローバル事業担当マネージャー)、村上和夫(立教大学 観光学部 教授)、森紀与子(盆栽研究家)、山中融(埼玉県産業労働部長)、吉田俊一(埼玉新聞社 編集局次長兼コミュニケーション事業本部 副本部長)

<事務局>

川島雅典(スポーツ文化部長)、金子康(スポーツ文化部次長)、菅建彦(大宮盆栽美術館長)、田口勝一(同副館長)、桑原勝(同参与)、山田登美男(同盆栽管理官)、柳橋毅(同主幹)、鳴瀬久美子(同主任)、田口文哉(同主事)、石田留美子(同主事)、林進一郎(同主事)

【次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 委員長、副委員長の選出
- 6 議 事
 - (1) 議 題
 - ① 平成25年度大宮盆栽美術館年間事業について
 - (2) 報 告
 - ① 海外広報専門部会の進捗状況について
 - ② 年度別入館者数の推移について
 - ③ 世界盆栽大会について
- 7 その他
今後の美術館のあり方について
- 8 閉 会

<配布資料>

資 料 委員名簿・要綱

書類番号1 平成25年度大宮盆栽美術館年間事業について

- 書類番号 2 海外広報専門部会の進捗状況について
書類番号 3 年度別入館者数の推移について
書類番号 4 世界盆栽大会資料

【会議内容】

5 委員長、副委員長の選出

佐藤委員長が委員を退任し、副委員長の松岡埼玉県産業労働部長が異動したため、「さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会設置要綱」に基づき、委員長の選任と副委員長の指名を行う。委員長は要綱では委員の互選、副委員長は委員長が指名することとなっている。老川委員が推薦を受け、また出席委員の賛同により委員長となる。委員長の指名により、副委員長は山中埼玉県産業労働部長となる。

6 議事

(1) 議題

① 平成25年度大宮盆栽美術館年間事業について

(意見・質問等)

委員長：昨年度3月に報告された事業予定と大きく変わったところはあるか。

事務局：タイトル等で若干の変更はありますが、大筋での変更はありません。

委員：盆栽や盆栽村の歴史について特別展を開催することはとても良い。開催後、いつ来館しても盆栽のあらゆることがわかる常設的なコーナー、特に子どもでもわかるものが常設されると良い。10月にさいたまクリテリウム by ツールドフランス（以下 クリテリウム）が開催され、どれだけ海外からお客様が来るかは未知数だが、さいたま市で行われる国際大会であり、大宮盆栽美術館は日本文化に触れることができるよい施設であるので、この機会に連動した取組を考えているのか。

事務局：まだ計画の段階だが、大会のためにお越しになった海外の方々を大会開催後、10月27、28日あたりで大宮盆栽美術館へお招きするような企画を練っている。具体的には英語版のパンフレットや解説、お茶席の用意等をできるのではないかと考えている。

委員：着物でご案内するのも良いのではないか。

委員：海外の方をお招きするという姿勢だけではなく、地域一体で応援する雰囲気づくりが必要ではないか。例えばクリテリウムのコース上に横断幕や応援席の設置、10月29日には植竹小で盆栽教室が開催されるので、そこに選手を招いて一緒に盆栽作りを体験してもらうこともできる。

委員：レセプション会場、表彰台の後ろ、プレゼン会場などにプレートをつけて盆栽を展示してもらおうよう交渉してみるのはいかがでしょうか。

事務局：クリテリウムの所管は経済局になるが、同じ市なので連携をとりたい。

委員：盆栽ブランドの高品位化を検討して欲しい。盆栽といえば、世界の最高級品と言

われるブランド形成をしていくことが重要。それが盆栽村の発展につながっていく。ブランドブリッジが必要。単体で高級であっても、人の評価は安定しない。服飾や技術、アジアの高品位ブランドとくっつけて、同時に展示していく戦略が今後必要となってくると思われる。

事務局：国際観光コンベンションで盆栽をジャパンプランドとして取り上げてもらっており、大宮の盆栽ブランドを一層発展させる運動に取り組んでいる。

委員：事業について、市報へ掲載されない事業がある。インターネットを見ることができない人もいるので、市報を見て参加する人への配慮をしてほしい。

事務局：市報のページ数が限られているため、市全体として記事が多い月は大宮盆栽美術館のスペースも限られてしまい、毎月行っている事業は掲載されない場合がある。なるべく全ての事業について広報できるように努めたい。

(2) 報告

① 海外広報専門部会の進捗状況について

(意見・質問等)

委員：館内に挨拶等自国言語があると、それが小さなものであっても目につき、おもてなしの心を感じる。

委員：大宮盆栽美術館は観光先としてコアな客層はあるが、一般観光先にはならないため、事業面で取り扱いが難しく、盆栽村との連携が必要。東京から足を運び、美術館をゆっくり鑑賞しても1時間、あと2時間すごせるものがないと、観光客を引き寄せるプログラムとなりづらい。併せて英語だけでも良いので、正確に説明できる人の育成を今から始め、2・3年かけて完成させて欲しい。観光については美術館だけで考えるのではなく、地域全体で人材育成が必要となる。今回知名度を上げるためにクリテリウムを利用することは有効であり、選手だけではなく、多数のメディアも来日するため、莫大な広報効果が得られる。

事務局：10月までの短い期間に外国語で説明できるガイドをどれだけ用意でき、どういうかたちで対応できるのか検討中ですが、クリテリウムを一つのステップとして、世界盆栽大会へつなげてゆきたい。

委員：正確な英会話は難しいが、植竹小学校の卒業生で現在高校生となっている生徒たちであれば、小学校時代の盆栽育成体験をもとに外国語で説明できると思う。

委員：イベントのサポートであれば大勢のボランティアは有効だと思う。観光施設として長い目でみた場合はセミプロが5・6人必要である。

委員：ウェブ対応について、検索システムで調べても、大宮盆栽美術館がなかなか出てこない。ウィキペディアにリンクを貼ることも有効だが、美術館のホームページ自体を充実させて、検索の上位に表示される努力が必要である。

事務局：問題は外国語のコンテンツが貧弱であること。また検索上位で見ってもらうためには、頻繁に更新することが必要となる。内容の充実を図ることが先決と考えている。

② 年度別入館者数の推移について

(意見・質問等)

委員：宮原駅からタクシーに乗ったら、運転手が美術館を知らなかった。近くに来て、信号に案内看板がなく、説明しづらかった。

事務局：土呂駅や大宮公園駅から徒歩で来館される方用には、案内看板が設置されている。車用としては産業道路と中山道には設置してある。

委員長：初めての方でもわかりやすい案内表示をする努力が入館者を増やすためには必要。

委員：美術館というと、ミュージアムショップとカフェがセットであることが連想される。しかし大宮盆栽美術館や盆栽村も飲食店が乏しい。飲食関係も一緒に広報していくと、人が集まるのではないか。

委員：美術館の周辺は何軒かあるが、魅力あるお店が少ない。日本人の盆栽に対するイメージが古いので、盆栽だけだと一般の方を呼ぶのは難しい。ここでないと、という特色のあるお店があると良いと思う。

事務局：盆栽村は風致地区のため、飲食店単独は建築条件の上で難しい。美術館は敷地スペースの関係で展示など美術館スペースを優先したため、カフェは計画されなかった。

委員：美術館に若者も来るようになれば、相乗効果で飲食店等も出店されるのではないか。入館者数が停滞しているようでは、出店を考える業者も出てこない。

事務局：開館前、土呂駅の名前を大宮盆栽美術館駅に変更する運動をしたが、費用が1億円ちかくかかるとのことです。うまくいかなかった。四季の家や公有地をどう有効活用していくか、長期的かつ総合的な計画が必要である。

委員：隣接の人材センターの敷地を活用して学校を設立し、盆栽科ができないか。そこで資格を取得し、海外でも活躍できる等の展望がみえると盆栽への注目が集まる。学校が出来れば盆栽のメッカとして、若者や芸術家があつまるとなるのではないか。

委員：子どもの頃から盆栽に接し、将来海外へ日本の文化として盆栽を説明できる人材の育成について美術館としてどう考えているのか。また他施設との連携をどう考えているか。

事務局：子どもについては、小学校との連携を進めている。教科書で扱われておらず、地域の副読本としてもあまり取り上げられていないため、盆栽に目をおく様、常に小学校に働きかけている。総合学習・図工・社会で取り上げるにしても、先生が難しいという意識を持ってしまっているため意識改革が必要。まずは来て見てもらうことが大事なのでPRを進めている。今年は夏休みの宿題として美術館に来てもらうために、展示パネルと対応したワークブックを作成した。将来的には各学年の発達段階に応じた教材を提供したい。施設連携としては、鉄道博物館などと開館時から連携を進めている。

③ 世界盆栽大会について

(意見・質問等)

委員：植竹小の取組がプレゼンテーションで取り上げられる予定である

委員：第1回世界盆栽大会会場となったソニックシティが今年25周年を迎え、記念イベントが行われる。それに連動させてイベントを行えば、次の世界盆栽大会への良いPRになる。

事務局：次の世界盆栽大会は2017年に開催されるが、さいたま市と台湾が開催地として名乗りを挙げている。今年の9月に会場が決定される予定である。高松でアジア大会を開催した際、日本人より多い中国人の来場があったので、今回さいたま市で開催されることになった時も、中国から多数の方がお見えになるだろう。また県議会でも質問がだされ、雰囲気としては盛り上がってきている。美術館も世界盆栽大会に向けて準備を進めていきたい。

7 その他

今後の美術館のあり方について

(意見・質問等)

委員：美術館の機能が近年変化している。かつてはコレクションを有し、研究・展示・解説をする、どちらかという来館者を待っている存在だった。これからはアーカイブ機能・教育的機能の充実が求められている。その為に盆栽や日本文化を理解し、それを英語で説明できる人材を育成することが第一歩である。学校教育の分野で、地域学習以外に図工・美術で日本文化を取り上げるようになってきている。まだ教科書の内容が充実していないので、学校の先生もどうやっていいか悩んでいる。そのため来館すれば盆栽が観られて、日本文化を学べることをPRすればニーズはある。

委員長：小学生にとっては盆栽を作るのも大事だが、写生をすることにより興味をもってもらうことも大切ではないか。

委員：盆栽村の観光活動と美術館が上手くかみ合っていない。盆栽が身近だった頃は大宮公園に行ったら盆栽村に行く、という感覚があったが、現在の小中学生にはその感覚がない。そういう意味でだれもが利用するところという普及活動を地域でつくりあげていくことが重要である。盆栽文化の再構築が美術館の仕事の一つ。盆栽は芸術品でもあるので選ばれた人が盆栽を所有する、その選ばれた人をどのように組織し、来館者を連れてきてもらうようにするかも美術館の重要な仕事である。これからの観光は旅をしないけれど、旅の楽しさのみ売られていく。今後は盆栽の所有者がどのように所有し、それが生活の中でどのような意味を持っているのかを次の盆栽文化として知らせていくことが必要である。盆栽の頂点を高める議論をしたい。

事務局：次回開催予定は来年2月。